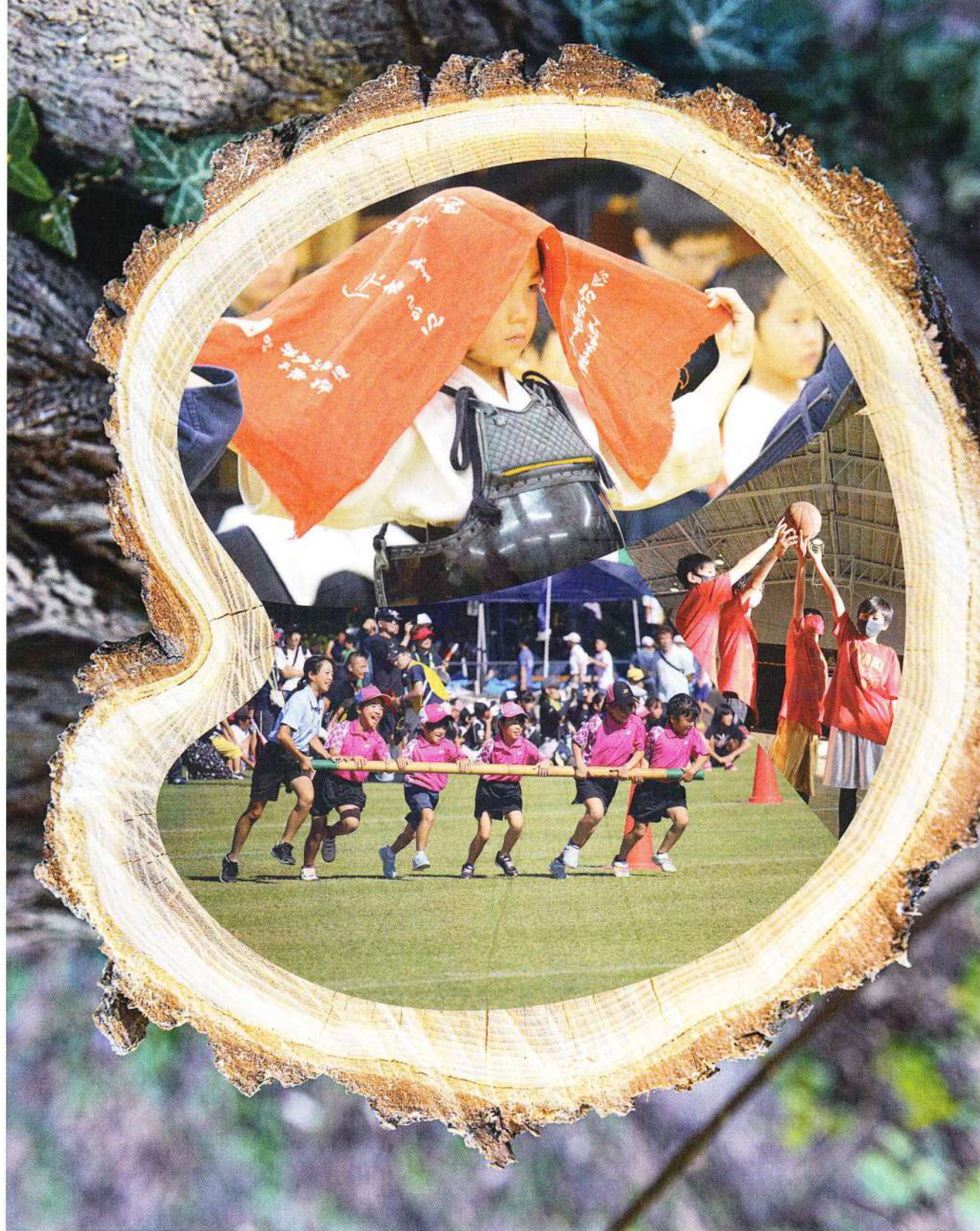




動き出そう スポーツと 地域の未来

埼玉県スポーツ少年団は創立 60 周年を迎えるにあたり、記念事業のロゴとキャッチコピーを作成しました。ロゴに使用した「60」の数字は木の年輪をイメージし、スポーツ少年団の歴史と伝統を表しています。キャッチコピーの「動き出そうスポーツと地域の未来」には、現在のスポーツ少年団やスポーツそのものが変革期にあり、この 60 周年を契機に大きく動き出そうという願いが込められています。

60
YEARS
ANNIVERSARY

埼玉県スポーツ少年団

ソフトテニス部会

～子供たちの明るい未来のために～

1. 諸言

まずは埼玉県スポーツ少年団 60 周年を心から祝福するものである。60 年間の重みには感じ入るものがある。埼玉県スポーツ少年団が誕生した昭和 37 年(1962 年)と言えば、東京都の人口が 1000 万人を突破して、世界一の大都市となり、日本は所謂、高度成長時代に突入しつつ非常に活気に満ち溢れていたに違いない。その頃の少年・少女達も今は孫が居る時代となっている。この間、スポーツ少年団は画期的な発展を遂げてきた訳である。これも我々の先輩諸氏の皆様方の多大なご尽力の賜物と敬意を表するものである。

2. ここ 10 年間の活動内容

前半は様々な事業を順調に実施してきた。例えば 2012 年には、第 33 回埼玉県スポーツ少年団小学生ソフトテニス交流大会(地区大会及び中央大会)、第 33 回埼玉県スポーツ少年団中学生ソフトテニス交流大会(中央大会)、当部会独自の企画で第 6 回スポーツ少年団関東小学生ソフトテニス交流大会、またヨネックス(株)実業団選手:逢野祐子選手及び鈴木華絵選手を招いてソフトテニス指導者講習会を開催した。更に時は進んで、2014 年度には先述の事業に加えて第 1 回埼玉県スポーツ少年団小学生ソフトテニス交流大会(団体戦)を開始した。しかしながら、2020 年からは新型コロナウイルス感染症拡大の影響を如実に被ってしまった。この時期は世界中の人々が見えない敵、COVID-19 と懸命に闘っていた。無念にも命を落とされた方々のご冥福を心から祈るばかりである。当部会は国家方針を遵守し、活動を自粛して恒例の交流大会も中止とした。ここで、10 年間の団数と団員数の推移を顧みてみよう。図表を本頁に掲載したので、まずは参照されたい。団数については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も受けず総じて微増傾向にある。他の競技別種目部会(ソフトテニス部会以外は全て減少傾向)と比べて特筆すべき事項である。一方、団員数に関しては新型コロナウイルス感染症拡大が始まる前までは、横ばい若しくは微増傾向であったが、緊急事態宣言が発せられてからは減少傾向にある。



(写真) 第 40 回記念埼玉県スポーツ少年団

小学生交流大会(中央大会)

3. 今後の取り組みと展望

全国の小学 5 年生と中学 2 年生を対象に、体力や運動能力を調べる今年度の国の調査で、50 メートル走やボール投げなど 8 項目の合計の全国平均が、小中学校ともに調査を始めてから最も低くなった。この原因は明らかであり、活動自粛等の影響を諸に受けている。今こそ「スポーツの価値」を広める必要があると考える。現在の少年・少女達を取り巻く環境は決して良いとは言えない。昔より裕福にはなっているが、反面、義理や人情、友情など人間にとって一番大切なものが希薄になっている様に思える。これを解決するため、組織的に展開していけるのが、スポーツ少年団の良いところであろう。我々、大人が利己主義にならず、共通の目的である「子供たちの健全育成」に向かっていける様に、「和」を以て臨める環境を作るのが部会長である筆者の責務であろうと考えている。「子供たちの明るい未来」のために、皆で足並み揃えて頑張っていきたい。

Table 10年間の団数、団員数及び指導者数の推移

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
団数	29	30	31	32	33	32	33	32	33	33	32
団員数	1240	1207	1207	1183	1243	1344	1369	1257	1234	1003	991
指導者 役員 スタッフ数	291	303	307	320	302	294	317	291	299	N/A	262

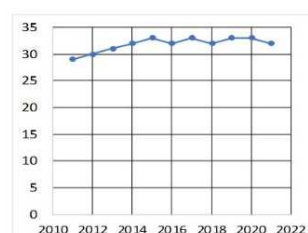


Fig. 登録団数の年度推移

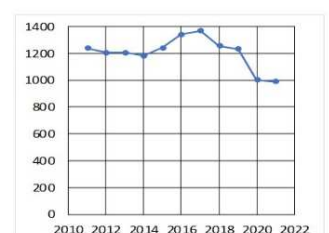


Fig. 登録団員数の年度推移